

## 『愛育』の想いを大切にする一年に 3 学期始業式

みなさん、明けましておめでとうございます。いよいよ今日から51日間の3学期が始まりました。学校には子どもたちの元気な声が戻り、どの教室も活気にあふれていました。

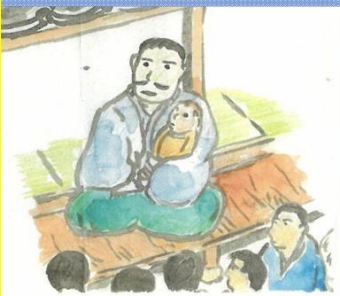


この冬休みは例年よりあたたかな年末年始となりましたが、能登半島地震や航空事故など大きな被害があった年始となりました。

始業式の校長講話では明治時代に孤児収容施設『愛育堂』を開設し、児童福祉の先駆者と言われた大野唯四郎（竹田地区・石原）の話と今回の地震を繋げて話しました。

『愛育』には、困っている子どもたちのことを放っておくことがなかった唯四郎の想いが込められていることを知らせた後、子どもたちに、再度震災の様子を見せて、「地震で困っている人たちのために、あなたにできることは何です

唯四郎は、お金がなくて病院に連れていけないという人にお金をわたしたり、食べ物がない困っている人にお米を分けてあげたり、捨てられていた子どもを引き取って育てたりしました。お金がいなくなると、自分の家の田んぼや山を売って助けた。





市島町下竹田（石原）にあります。



「わたしたちは、この愛育の精神をうけつぎ、唯四郎の歩んだ道を後の人にも伝えていく」という決意が書かれています。

か」と尋ねました。

子どもたちからは、「食べ物を届ける」「貯めているお金を募金する」「ボランティアに行きたい」などの意見が出ました。1年生からは「ぼくは困っている人の分まで勉強を頑張る」との意見も。先生方からは「この震災を忘れずに、伝え続けること」「日頃から何ができるか考えておくこと」「関心を持ってニュースを観ること」「励ましの手紙をおくれないだろうか」

「今できることを一生懸命頑張ること」などの意見が出て、一人ひとりが自分にできることを考えた時間となりました。

今後長期化が予想される震災についても、唯四郎の想いを引き継ぐこの竹田の地域だからこそ、考えられること。できることがあるのではないかと考えています。